

6. 予測結果の検証及び保全目標の達成状況

1) 猛禽類の生息状況

(1) 生息状況の比較

調査結果に基づき、工事実施前（平成 23 年）と工事中（平成 24 年）の生息状況の比較を行った。その結果を表 8-8-3 に示す。

表 8-8-3 工事実施前（平成 23 年）と工事中（平成 24 年）の猛禽類の生息状況の比較

種名	工事実施前 （平成 23 年） 出現回数	工事中 （平成 24 年） 出現回数	特記事項
ハチクマ	全 域：6 ■■■■■■	全 域：1 ■■■■■■	工事実施前（平成 23 年）は渡り途中の移動個体が複数確認されたが、工事中（平成 24 年）は単独の移動個体が確認されたのみであった。いずれの年も繁殖に係る行動は確認されていない。
オオタカ	全 域：9 ■■■■■■	全 域：7 ■■■■■■	工事実施前（平成 23 年）はディスプレイ行動、工事中（平成 24 年）はエサ運搬や他種を攻撃する行動が確認されており、繁殖の可能性がある。
ツミ	全 域：1 ■■■■■■	全 域：2 ■■■■■■	工事実施前（平成 23 年）、工事中（平成 24 年）とも出現は少なく、繁殖に係る行動も確認されていない。
ハイタカ	全 域：2 ■■■■■■	全 域：2 ■■■■■■	工事実施前（平成 23 年）、工事中（平成 24 年）とも出現は少なく、繁殖に係る行動も確認されていない。
サシバ	全 域：5 ■■■■■■	全 域：8 ■■■■■■	工事実施前（平成 23 年）は 2 個体同時飛翔、工事中（平成 24 年）は他種を攻撃する行動が確認されており、繁殖の可能性がある。
クマタカ	全 域：2 ■■■■■■	全 域：5 ■■■■■■	工事実施前（平成 23 年）は探餌行動、工事中（平成 24 年）は巣材運搬やエサ運搬が確認されており、繁殖の可能性がある。
ハヤブサ	全 域：1 ■■■■■■	全 域：0 ■■■■■■	工事実施前（平成 23 年）、工事中（平成 24 年）とも出現は少なく、繁殖に係る行動も確認されていない。

※調査期間中の工事実施状況は、平成 23 年は工事実施前、平成 24 年は伐採工が終了し、造成工事を実施している状況であった。

調査実施状況は、両年とも調査時期は 4 月から 7 月、調査日数は月あたり 2 日間、調査地点は同じ 2 地点であった。

なお、表中の工事区域の出現回数は、後述するメッシュ解析における出現回数とは異なる。

ハチクマについては、出現回数の減少が見られた。これは工事実施前（平成 23 年）は渡り途中の移動個体が複数回確認されたが、工事中（平成 24 年）は単独の移動個体が確認されたのみであったためと考えられる。繁殖に係る行動は、いずれの年の調査でも確認されなかった。

ツミ、ハイタカ、ハヤブサについては、工事実施前（平成 23 年）、工事中（平成 24 年）とも出現回数が少なく、繁殖に係る行動も確認されなかった。

オオタカ、サシバ、クマタカについては、工事実施前（平成 23 年）と工事中（平成 24 年）で出現回数の増減が見られるものの、継続してディスプレイ行動や他種を攻撃する行動等が確認されており、繁殖の可能性がある。これまでの調査では、■■■■■■これらの営巣地は確認されており、エサ運搬や巣材運搬といった営巣地の存在を示唆する行動は、■■■■■■確認されていることから、■■■■■■存在するものと考えられる。営巣期にはその地域を中心として、■■■■■■行動圏にしていると考えられる。

(2) メッシュ解析による比較

繁殖の可能性があるオオタカ、サシバ、クマタカの3種については、生息状況の変化を確認する必要があると判断し、工事実施前（平成23年）と工事中（平成24年）の確認状況図に3次メッシュ（約1km四方の基準地域メッシュ）を16分割した約250m四方のメッシュを重ね、出現を確認したメッシュ数、各メッシュの出現回数、出現を確認したメッシュの分布状況、繁殖に係る行動の確認位置を比較した。その結果を、図8-8-8～図8-8-13及び表8-8-4に示す。

図8-8-8 オオタカ確認メッシュ
(工事実施前：平成23年)

注目すべき種の生育・生息場所が特定できる情報は、マスキングあるいは非表示としました。

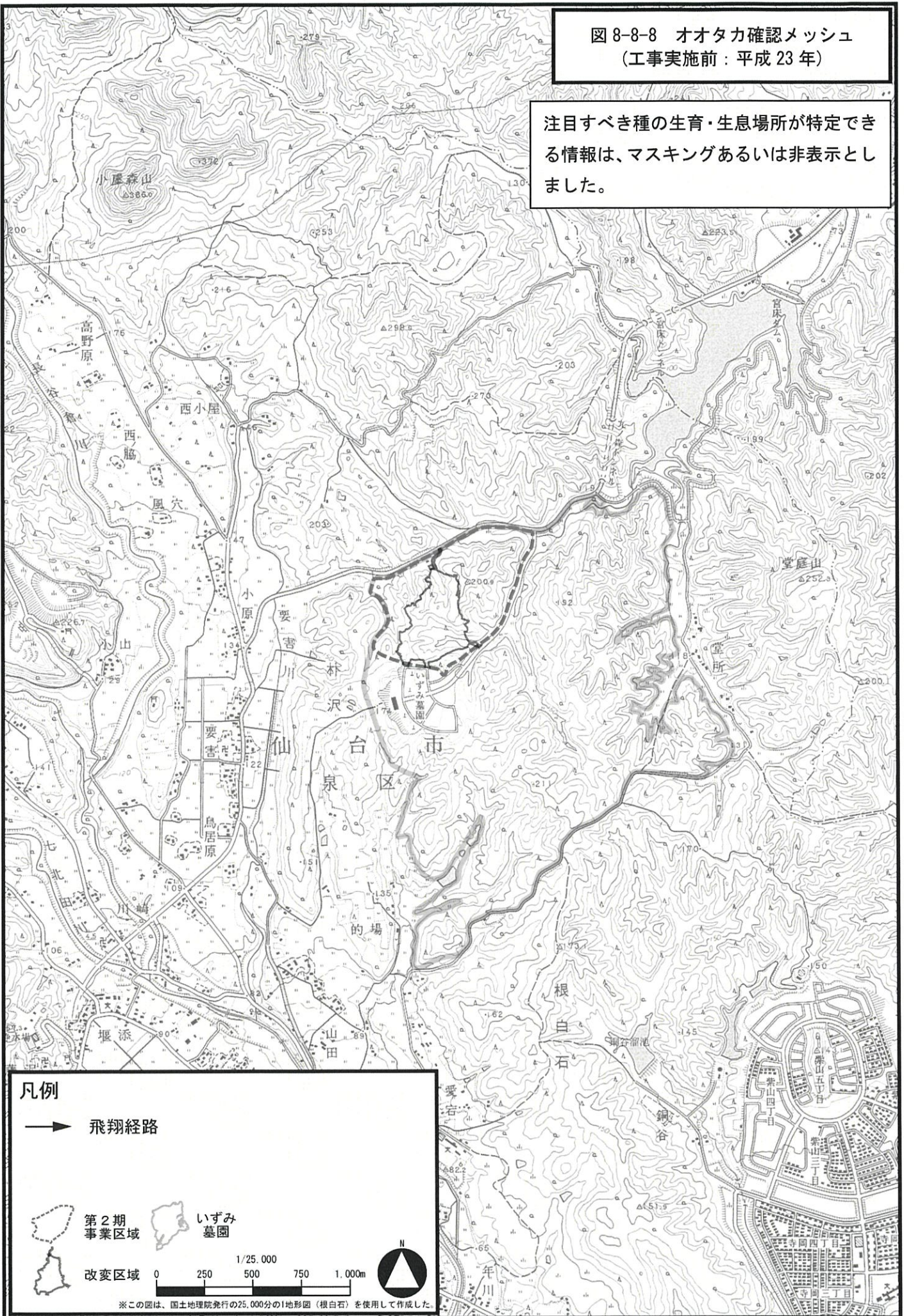


図 8-8-9 オオタカ確認メッシュ
(工事中：平成 24 年)

注目すべき種の生育・生息場所が特定できる情報は、マスキングあるいは非表示としました。



図 8-8-10 サシバ確認メッシュ
(工事実施前：平成 23 年)

注目すべき種の生育・生息場所が特定できる情報は、マスキングあるいは非表示としました。

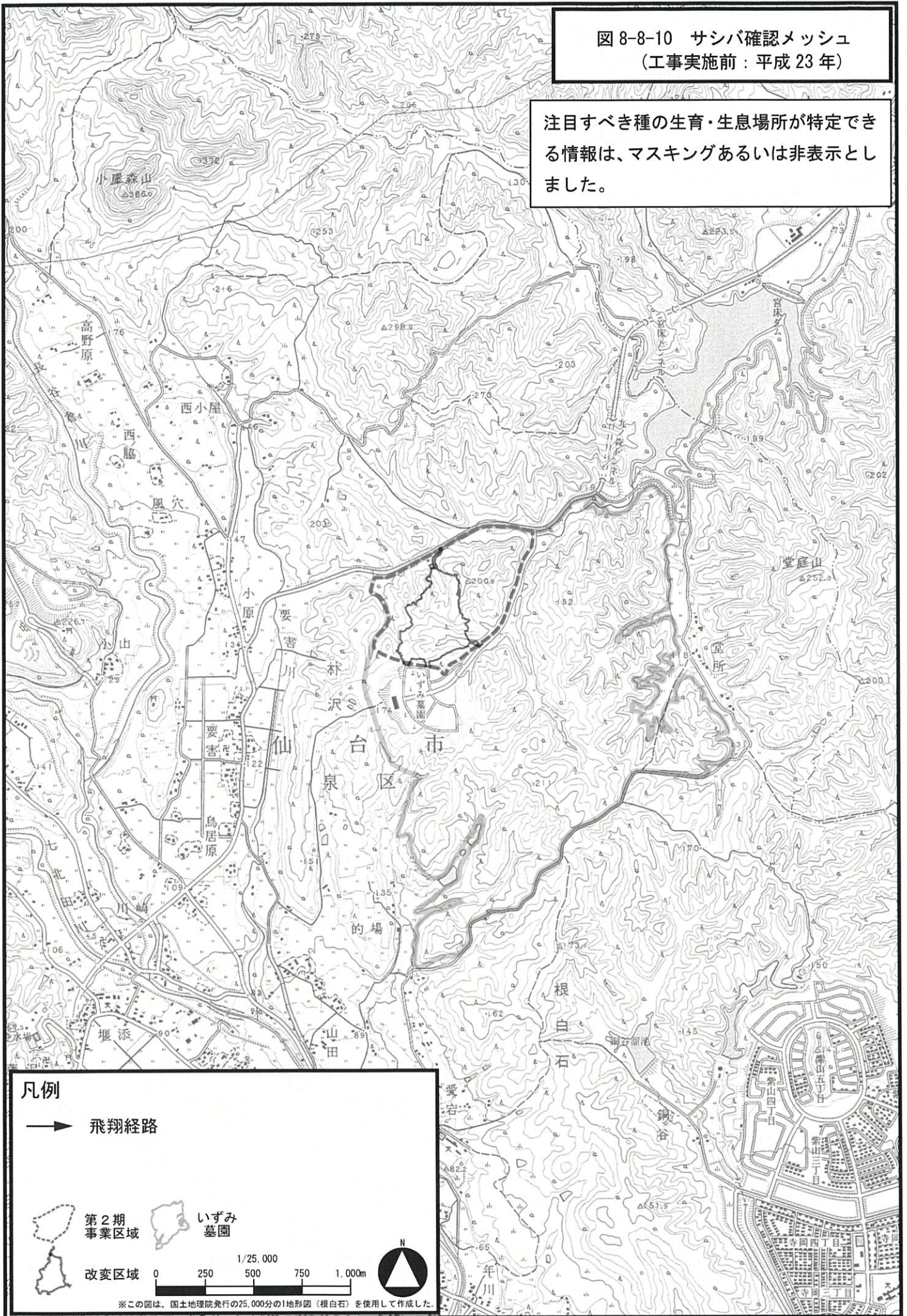


図 8-8-11 サシバ確認メッシュ
(工事中：平成 24 年)

注目すべき種の生育・生息場所が特定できる情報は、マスキングあるいは非表示としました。



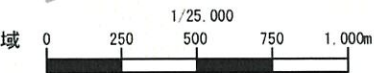
凡例

→ 飛行経路

第2期事業区域

いずみ墓園

変更区域



※この図は、国土地理院発行の25,000分の1地形図（根白石）を使用して作成した。

図 8-8-12 クマタカ確認メッシュ
(工事実施前：平成 23 年)

注目すべき種の生育・生息場所が特定できる情報は、マスキングあるいは非表示としました。

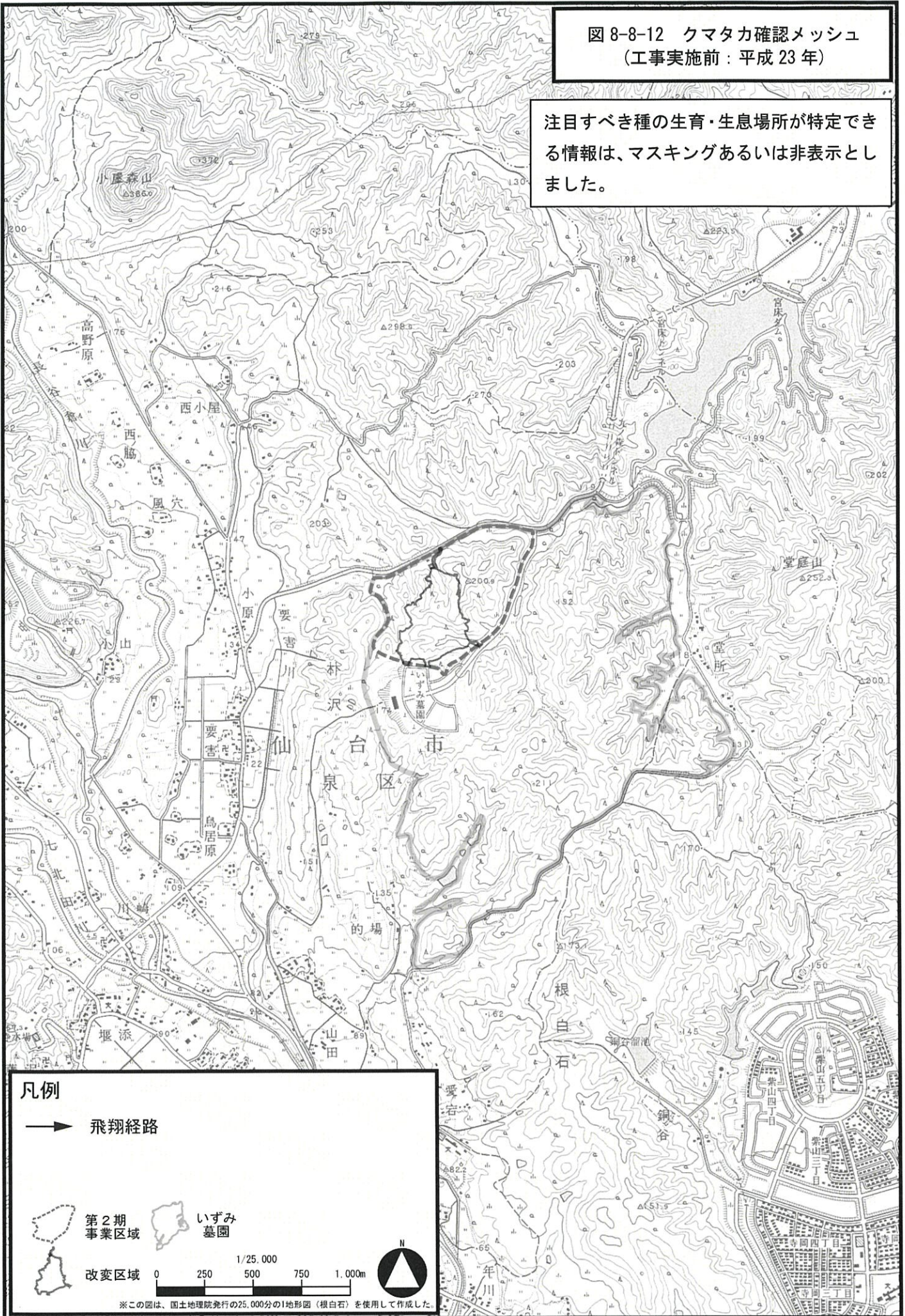


図8-8-13 クマタカ確認メッシュ
(工事中：平成24年)

注目すべき種の生育・生息場所が特定できる情報は、マスキングあるいは非表示としました。

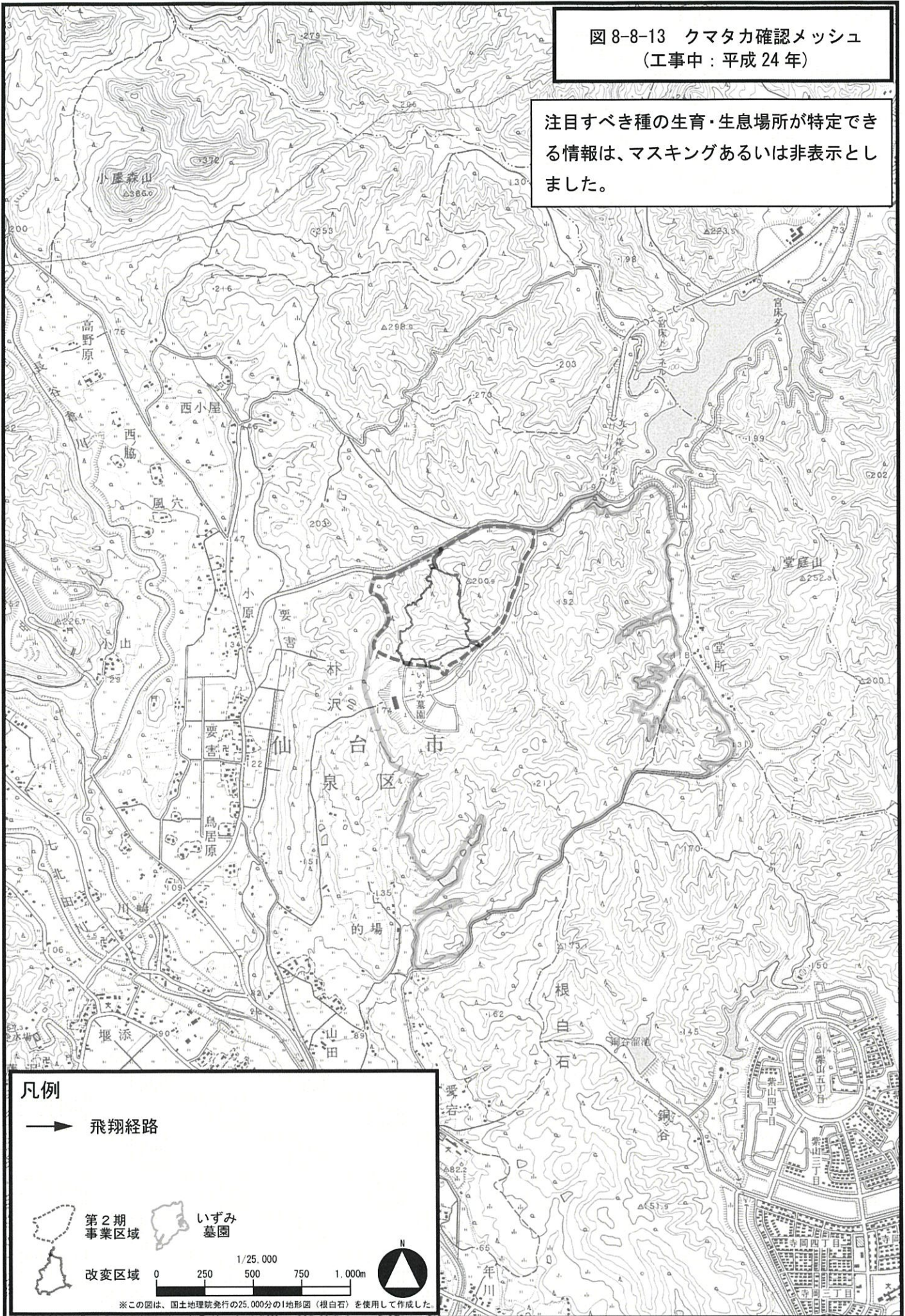


表 8-8-4 工事実施前（平成 23 年）と工事中（平成 24 年）のメッシュ解析による比較

種名	区分	工事実施前 (平成 23 年)	工事中 (平成 24 年)	増減
オオタカ	[Redacted]	■	■	■
	[Redacted]	■	■	■
	[Redacted]	■	■	■
	[Redacted]	■	■	■
	[Redacted]	■	■	■
	[Redacted]	■	■	■
	[Redacted]	■	■	■
	[Redacted]	■	■	■
サシバ	[Redacted]	■	■	■
	[Redacted]	■	■	■
	[Redacted]	■	■	■
	[Redacted]	■	■	■
	[Redacted]	■	■	■
	[Redacted]	■	■	■
	[Redacted]	■	■	■
	[Redacted]	■	■	■
クマタカ	[Redacted]	■	■	■
	[Redacted]	■	■	■
	[Redacted]	■	■	■
	[Redacted]	■	■	■
	[Redacted]	■	■	■
	[Redacted]	■	■	■
	[Redacted]	■	■	■
	[Redacted]	■	■	■

オオタカ、サシバ、クマタカ、各種の、工事実施前（平成 23 年）と工事中（平成 24 年）のメッシュ解析による生息状況の比較結果は、以下のとおりである。

[Redacted]

●オオタカ

オオタカの出現メッシュ数は [Redacted] 減少した。

[Redacted]

工事中（平成 24 年）に確認されたオオタカのエサ運搬先は、[Redacted] この付近に営巣地が存在し、繁殖個体が生息するものと考えられる。また、いずれの年も [Redacted] 確認されていることから、この地域に別個体が生息するものと考えられる。工事実施前（平成 23 年）に確認されたディスプレイ行動と工事中（平成 24 年）に確認された他種を攻撃する行動は、位置が若干異なっているが、[Redacted] 繁殖する個体がなわばりを誇示するために行ったものと考えられる。

メッシュ解析の結果、[Redacted] 出現が減少していること、また、なわばりを誇示する行動の位置が若干異なっていることから、オオタカが [Redacted] 可能性がある。しかし、なわばりを誇示する行動そのものは継続して確認されたほか、工事中であってもエサ運搬行動が確認され、[Redacted] 繁殖活動が維持されていると考えられること、また、[Redacted] 継続して確認されたことから、オオタカの生息状況に大きな変化はないものと考えられる。

●サシバ

サシバの出現メッシュ数は [Redacted] 増加した。

[Redacted]

サシバについては、平成 20 年の現況調査時に [Redacted] 確認されたことから、この付近に営巣地が存在し、繁殖個体が生息するものと考えられる。また、確認位置は異なっているが、工事実施前（平成 23 年）は 2 個体同時出現、工事中（平成 24 年）は他種を攻撃する行動といった繁殖に係る行動が確認された。

メッシュ解析の結果、[Redacted] 出現が減少していること、また、繁殖に係る行動の確認位置が異なっていることから、サシバが [Redacted] 可能性がある。しかし、繁殖に係る行動そのものは継続して確認され、[Redacted] 繁殖活動が維持されていることから、サシバの生息状況に大きな変化はないものと考えられる。

●クマタカ

クマタカの出現メッシュ数は [Redacted] 増加した。

[Redacted]

工事中（平成 24 年）に確認されたクマタカのエサ運搬先や巣材運搬先は、[Redacted]

[Redacted] この付近に営巣地が存在し、繁殖個体が生息するものと考えられる。採餌に係る行動に

については、工事実施前（平成 23 年）の採餌行動は[]確認されたが、工事中（平成 24 年）のエサ運搬元は[]

メッシュ解析の結果、[]出現が減少していること、また、採餌に係る行動の位置が異なっていることから、クマタカが[]可能性がある。しかし、採餌に係る行動そのものは継続して確認されたこと、また、工事中であってもエサ運搬等の繁殖に係る行動が確認され、[]繁殖活動が維持されていると考えられることから、クマタカの生息状況に大きな変化はないものと考えられる。

（3）検証結果及び保全目標の達成状況

評価書において猛禽類の保全目標は「生息状況に大きな変化がないこと」としている。

繁殖に関する行動が確認されたオオタカ、サシバ、クマタカについては、これまでの調査結果から、[]存在するものと考えられ、営巣期にはその地域を中心として、[]広い範囲を行動圏にしていると考えられる。

工事実施前（平成 23 年）と工事中（平成 24 年）の生息状況をメッシュ解析等により比較した結果、[]出現が減少し、繁殖に係る行動等の位置が変化していることが確認され、オオタカ、サシバ、クマタカが[]可能性が示唆された。しかし、工事中であっても繁殖に係る行動が継続して確認されるなど、[]繁殖活動が維持されていると考えられることから、これら 3 種の生息状況に大きな変化はなかったものと考えられ、現段階では保全目標を達成していると判断する。

繁殖に係る行動が確認されていないハチクマ、ツミ、ハイタカ、ハヤブサについては、本事業に伴う影響の有無を判断できるほどのデータが取得できていないため、生息状況の変化については不明である。猛禽類の生息状況については、引き続き事後調査計画に基づいて調査を行い、生息状況の変化の有無を確認することとする。

2) 注目すべき生息地 [redacted] での水生動物の生息状況

[redacted] 注目種の比較は、表 8-8-6 に示すとおりである。継続して確認した種が 6 種、確認がなかった種が 3 種、新たに確認した種が 6 種であった。確認種の変化は、 [redacted]

[redacted] そのことを示していると考えられる。しかし、他の多くの種は継続して確認していることから、 [redacted] 注目種の生息地としての機能を維持しているものと考えられる。

[redacted] 水生動物の状況は、表 8-8-7 に示すとおりである。トウホクサンショウウオの産卵を確認したほか、オニヤンマの幼生やカワニナなどの水生動物を確認したことから、水生動物の生息地として機能していることを確認した。

評価書において [redacted] 保全目標は「水生動物による [redacted] 利用が見られること」としているが、 [redacted] 継続して注目種の生息を確認したこと、また、 [redacted] 水生動物による利用を確認したことから、現段階では保全目標を達成していると判断する。

表 8-8-6 [redacted] 注目種の比較

現況調査時(平成 20 年)の注目種	平成 24 年に確認した注目種
【両生類】 <u>クロサンショウウオ幼生</u> — — 【昆虫類】 オオコオイムシ タイコウチ キヌツヤミズクサハムシ トウホクナガケシゲンゴロウ ヒゲナガハナノミ オオアオイトトンボ モノサシトンボ クロスジギンヤンマ — — — — 【貝類】 モノアラガイ	【両生類】 <u>クロサンショウウオ幼生</u> イモリ幼生 モリアオガエル鳴き声、卵塊、幼生 【昆虫類】 コオイムシの一種 — — — <u>ヒゲナガハナノミ</u> <u>オオアオイトトンボ</u> <u>モノサシトンボ</u> <u>クロスジギンヤンマ</u> オゼイトトンボ エゾイトトンボ オオルリボシヤンマ ミズスマシ 【貝類】 <u>モノアラガイ</u>

※下線は両年に重複する種。

平成 24 年はこの他に注目種ではないが、コサナエ、クロイトトンボ、アオイトトンボ、キイトトンボ、コツブゲンゴロウ、マメゲンゴロウ、ゴマフガムシが確認された。

表 8-8-7 [redacted] 水生動物の比較

平成 22 年 9 月	平成 24 年 4 月	平成 23 年 4 月	平成 24 年 4 月
<u>トウホクサンショウウオ幼生</u> <u>オニヤンマ幼生</u> ミルンヤンマ幼生 <u>フタスジモンカゲロウ</u>	<u>トウホクサンショウウオ卵囊</u> <u>オニヤンマ幼生</u> フタスジモンカゲロウ ヒラタカゲロウ属 トビロカゲロウ属 オナシカワゲラ属 カワニナ	※設置直後のため確認なし	トウホクサンショウウオ成体、卵囊 オニヤンマ幼生 フタスジモンカゲロウ ヒラタカゲロウ属 トビロカゲロウ属 カワニナ

※下線は両年に重複する種。

3) 移殖を行った種の定着状況

評価書において移殖を行った種の保全目標は「移殖先で定着していること」としている。

トウホクサンショウウオについては、移殖先の [REDACTED] 卵嚢数の増加を確認したが、これは工事に伴う改変域内の産卵環境の消失に伴い、新たに産卵場所として利用されるようになったためと考えられる。移殖した卵から孵化した個体が産卵に参加するまでにあと 3~4 年が必要であることから、現段階では保全目標の達成状況を判断することはできない。

クロサンショウウオについてもトウホクサンショウウオと同様に、移殖した卵から孵化した個体が産卵に参加するまでにあと 3~4 年が必要であることから、現段階では保全目標の達成状況を判断することはできない。

サンショウウオ類 2 種について、今後保全目標の達成状況を確認するためには、これらの産卵環境として整備した [REDACTED] 環境を維持し、産卵数の変化を確認することが必要であることから、事後調査計画に基づいて調査を行い、産卵環境及び産卵状況を確認する。

ホトケドジョウについては、開放水域に成体を移殖したことから、移殖個体の定着状況を定量的に確認することはできないが、今回生息個体数の増加が見られ、移殖先で安定的に生息しているものと考えられることから、現段階では保全目標を達成しているものと判断する。

モリアオガエルについては、移殖先における卵塊数の増加を確認した。これは成体を移殖したためと考えられ、現段階では保全目標を達成しているものと判断する。一方、移殖した卵塊から孵化した個体が産卵に参加するまでにあと 2 年程度が必要であることから、事後調査計画に基づき調査を実施し、産卵状況を確認することとする。

第9節 廃棄物

1. 調査内容

調査は、評価書で予測評価した以下の内容で行った。

・伐採木の処理状況

伐採木の処理状況について調査し、保全目標の達成状況を確認した。

2. 調査方法

調査方法は、評価書の事後調査計画に基づき、伐採木が適正に処理されていることを、工事記録や伝票により確認した。

3. 調査地点

調査は、評価書の事後調査計画に基づき、第2期事業区域で実施した。

4. 調査期間・時期・頻度等

調査は、評価書の事後調査計画に基づき、伐採木の売払や破砕処理が終了した平成24年6月に実施した。

5. 調査結果

伐採木の処理状況は、表8-9-1に示すとおりである。用材として売払した数量は884m³、チップ材として売払した数量は728m³、破砕材として処理した数量は9,270m³であった。また、破砕材については、場内の切土法面への吹付材等として活用するために仮置きした数量が2,895m³、中間処理場に委託処理し、家畜用の敷料として再利用した数量は6,075m³、木質バイオマスとして再利用した数量は299m³であり、伐採木の全量を有効活用したことを確認した。

表8-9-1 伐採木の処理状況(単位 m³)

区分	数量
用材総量	884
スギ用材	699
ヒノキ用材	174
アカマツ用材	11
チップ材総量	728
スギチップ材	575
マツ他チップ材	31
広葉樹チップ材	122
破砕総量※	9,270
場内使用	2,895
家畜敷料	6,075
木質バイオマス	299

※小数点以下の合計、四捨五入のため表示した数値での合計にはならない。



写真 8-9-1 用材の搬出状況(平成 24 年 4 月 5 日撮影)



写真 8-9-2 チップ材の集積状況(平成 24 年 4 月 7 日撮影)



写真 8-9-3 伐採木枝条の破砕処理状況(平成 24 年 4 月 18 日撮影)



写真 8-9-4 伐採木枝条の破碎処理及び搬出状況(平成 24 年 4 月 19 日撮影)



写真 8-9-5 伐採木枝条の委託先での破碎処理状況(平成 24 年 4 月 5 日撮影)



写真 8-9-6 破碎材仮置き状況(平成 24 年 11 月 20 日撮影)

6. 予測結果の検証及び保全目標の達成状況

評価書における伐採木の処理の保全目標は「伐採木が適正に処理・再利用されていること」として
いるが、伐採木は用材やチップ材として売払を行い、破砕材は切土法面への吹付材としての場内使用
のための仮置きを行ったほか、家畜敷料、木質バイオマスとして再利用を図り、伐採木の全量を適正
に処理・再利用していることから、保全目標を達成していると判断する。

第10節 温室効果ガス

1. 調査内容

調査は、評価書で予測評価した以下の内容で行った。

・重機の稼働に伴う二酸化炭素排出量（その保全措置の実施状況）

重機の稼働に伴って発生する二酸化炭素排出量を削減するための保全措置の実施状況について調査し、保全目標の達成状況を確認した。

2. 調査方法

調査方法は、評価書の事後調査計画に基づき、施工業者への聞き取り及び関連書類により、低燃費型重機が使用されているかどうか、また、作業員に対して温室効果ガス削減のための研修を行っているかどうかを確認した。

3. 調査地点

調査は、評価書の事後調査計画に基づき、第2期事業区域で実施した。

4. 調査期間・時期・頻度等

調査は、評価書の予測時点に合わせて重機の稼働がピークとなる時期に実施した。評価書時点の工事工程では、ピークが平成25年3月になると想定していたが、評価書で実施することとした環境保全措置に基づき、工事工程や施工方法の見直しを行った結果、ピークが平成24年10月～12月になったことから、それに合わせて調査時期を変更した。調査は、平成24年11月19日に実施した。

5. 調査結果

1) 低燃費型重機の使用状況

低燃費型重機の使用状況について、施工業者に使用状況を確認した。その結果は表8-10-1に示すとおりであり、低燃費型の設定がある機種に関しては、低燃費型を選定していることを確認した。

表 8-10-1 環境対策型重機の使用状況

機械名	機種・規格	稼働台数	低燃費※
D8R	38t級リッパブルドーザ	2	
D6R	21t級リッパブルドーザ	2	
D8N	38t級湿地ブルドーザ	1	
D7H	28t級湿地ブルドーザ(1台は予備)	1(1)	
SR280P	8m ³ スクレープドーザ	3	
BW211	10t振動ローラー	1	
SV512D	12t振動ローラー	1	
SK200+ブレイカ F20	0.8m ³ 油圧ショベル(配管・クレーン仕様2.9t)+ブレイカ	1	△
SH200	0.7m ³ 油圧ショベル(クレーン仕様2.9t)	1	△
ZX120	0.5m ³ 油圧ショベル(クレーン仕様2.9t)	1	○
ZX75UR	0.25m ³ 油圧ショベル(クレーン仕様1.7t)	1	○
EG70R	7tクローラーダンプ(全旋回式)	1	

※○：CO₂排出低減に資する低燃費型建設機械の指定に関する規程類及び指定状況(最終指定平成21年4月13日終了)において指定されている機械

△：上記には指定されていないが、省エネモードなどの燃費低減機構を備える機械



写真 8-10-1 低燃費型重機の使用状況

左：ZX120(平成 24 年 9 月 5 日撮影)、右：SK200(平成 24 年 10 月 26 日撮影)

2) 作業員の研修の状況

作業員に対する温室効果ガス削減のための研修の実施状況について、施工業者に聞き取りを行った。その結果、新規入場する作業員に対して図 8-10-1 に示すような調査票により、アイドリングストップ等、温室効果ガス削減に係る研修を実施していることを確認した。また、図 8-10-2 に示す点検表により、毎日実施する巡視点検時にアイドリングストップ等の実施状況を点検していることを確認した。

● 厳守事項 読んで理解できた項目にチェックを入れてください。 橋本店・奥田建設JV

安全は、あなたやあなたの家族のためのものです。次に示す安全規則を必ず守ってください。

- ・ここは墓園で一般来園者が多数いる中での工事になりますので接触事故などが無いように周囲の安全を十分に確認すること。
- ・油脂の流出防止対策(マット・処理剤)を実施願います。給油は決められた場所・手順で行い職員・責任者の立会のもと行うこと。
- ・場内は原則禁煙です。指示・許可を受けた灰皿・消火器を設置し、火元責任者がいる場所でのみ喫煙が可能です。
- ・8:30～16:30以外は出入口のゲートが施錠されますし、出入りは代理人の管理責任での出入りになります。施錠が大原則です。
- ・朴沢地区は特に交通法規を遵守し法定速度以下で走行し地元車両を最優先して下さい。
- ・園内は全て 徐行で走行し来園車両を最優先して下さい。道路横断時も注意して下さい。
- ・就業前の安全集会(朝礼、体操、KYK、TBM)は、必ず出席してください。
- ・始業点検(機械・工具・仮設足場・作業所・車両等)を必ず実施し記録しましょう。
- ・危険・立入禁止・その他の標識、又は表示を確認してから作業しましょう。
- ・作業に必要な保護具(保安帽・安全带・安全靴・防護メガネ・防塵マスク・防振手袋等)は、必ず使用してください。
- ・無資格者が免許や講習を必要とする、機械・電気等の取り扱いは絶対禁止です。
- ・機械と共同作業の時は、機械の作業半径内立入禁止で指揮者・誘導員が必要です。又、合図は定められた方法で。
- ・開口部にある箇所は転落防止柵(中さん、巾木付)を設置し、許可なくはずさないでください。
- ・作業場内・作業通路等は常に障害物のない、動きやすい状態にしましょう。(整理整頓に努めましょう。)
- ・休憩所の清掃・衣類の清潔を心掛け、気持ちよく作業できるようにしましょう。
- ・小さなケガでも、作業責任者及び会社に届けてください。
- ・作業手順に従い作業を行い、打合せ以外の作業や行動をしないでください。承認が必要です。
- ・動物との衝突を回避、残置森林内への立入禁止、ゴミや残飯の放置禁止、野生動物への威嚇・餌付けの禁止。
- ・効率的な機械配置を行いアイドリングストップ実施・過負荷運転の抑制、過積載の禁止、運行時の点検整備の実施。
- ・運転、運行は省エネ運転マニュアルの周知を行い、省エネモードを活用しましょう。
- ・乗り合いでの通勤を心がけ、環境への負荷の低減・軽減を図りましょう。

図 8-10-1 新規入場者への調査票 (該当箇所抜粋)

環境関係	出入り口を汚していないか。タイヤの洗浄は必要ないか。			
	アイドリングストップはしているか。過負荷運転の抑制をしているか。			
	省エネモードを採用しているか。効率的な機械配置をしているか。			
	積荷の重量、荷姿は適切か。過積載をしていないか。			
	資材運搬ルート・運行状況は適切か。			
	資材運搬時のスピードは出しすぎていないか。			
	油脂・廃棄物の管理は適切か。			
	残置森林に立ち入っていないか。			
	ゴミや残飯は適正に処理したか。野生動物へ威嚇・餌付けはしていないか。			
	裸地などから粉塵や飛砂はないか。防音対策を実施しているか。			
(特記事項)				

点検状況記入例：良好 ○ 不良 × 該当なし -

図 8-10-2 安全・環境巡視点検表（該当箇所抜粋）

6. 予測結果の検証及び保全目標の達成状況

評価書における温室効果ガスの保全目標は「環境対策型重機が使用されていること、保全措置に係る研修が行われていること」としているが、二酸化炭素排出量の削減のため、低燃費型重機を使用していること、また、保全措置に係る作業員の研修を行い、その実施状況の点検を行っていることを確認したことから、保全目標を達成していると判断する。

第9章 調査結果の検証

事後調査結果に基づいて、予測結果及び保全目標の達成状況を検証した結果、重機稼働に係る大気質、騒音、振動、廃棄物、温室効果ガスに関しては、工事ピーク時において保全目標を達成していることを確認したことから、追加調査や追加的環境保全措置は実施せず、今回で調査終了とする。その他に関しては、XXXXXXXXXX 注目すべき生息地のように、現段階では保全目標を達成しているが、今後影響が顕在化する可能性がある項目や、移植・移殖した種の定着状況のように、現段階で保全目標の達成が確認できない項目があることから、それらについては評価書に示した事後調査計画に基づいて調査を実施する。

第10章 事後調査の委託先の氏名及び住所

事後調査の委託先

委託先名称 : 株式会社 プレック研究所 東北事務所

委託先代表者 : 事務所長 大友 直樹

委託先住所 : 仙台市青葉区本町2丁目7-35 第七広瀬ビル6F